

前回は、新聞の写真が持つ3つの働きについて書きました。「百聞は一見にしかず」というように、1枚の写真が100行の記事より多くの事実を伝えることもあります。今回は、新聞に掲載される写真をいくつかの種類に分けてみます。

- ・出来事の様子を伝える写真……事件や事故の現場、催しもの一場面など。
- ・人物写真……事件や事故の関係者、活躍したり賞を受けたりした人、死亡した著名人、インタビューに答える表情など。
- ・記事に添える写真……書評欄につく新刊書の表紙、料理記事につく盛り付け例など。
- ・季節感のある写真……入学式や卒業式、こいのぼりや山開き、花の開花や紅葉など。

写真を紙面に取り入れることにより、臨場感のある、より迫りに満ちた記事にしたり、紙面にぬくもりや、やわらかさを与えたりすることができます。読みやすい紙面づくりに、写真は欠かせません。そして、その写真には「絵解き」「キャプション」と呼ばれる説明文を付けるのが普通です。これは、写真からはわからない記事の要素(5W1H)を補うためです。「what」(何をしているか)や「how」(どのようにしているか)などが中心になります。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)